

普及活動情勢報告（平成30年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

見て、聞いて、触れてナットク！ ～はちきん農業大学高南地区講座の開催～



土壌分析を実演する普及指導員

6月21日、普及所で本年度第1回目の地区講座（農業施策、土づくり）を開催し、新規就農者を含む5名の女性農業者が参加しました。普及所は、農業施策では新規就農者制度など、土づくりではほ場での採土方法などを説明しました。また、土づくりでは、ほ場の状態を知ることの大切さについて講義を行い、その後、用意した土壌でpHを測定するなど簡易な土壌分析も体験してもらいました。受講生からは「丁寧な説明や実演でわかりやすかった」「帰って早速やってみたい」という声が上がりました。普及所は、本年度の地区講座を通じて、女性農業者の農力向上を支援していきます。

集落営農法人の会計処理をレベルアップ！ ～集落営農法人会計研修会の開催～



熱心に研修する参加者

6月29日、JA四万十営農総合センターで集落営農法人を対象に会計研修会を開催し、3法人及び関係機関から7名が参加しました。普及所は、法人組織の決算書の見方や、次年度更新処理などを指導し、現在の記帳状況についても確認しました。参加者からは「補助金や交付金等についての処理はどうしたらよいか」など気になっていた仕分けについての質問などがありました。普及所は今後も、集落営農組織が自ら会計処理ができるように、JA、役場など関係機関と連携して支援していきます。

県域で集落営農法人の連携強化 ～平成30年度集落営農法人ネットワーク高知総会の開催～



（株）サンビレッジ四万十の事例紹介

7月10日、影野町民会館で集落営農法人ネットワーク高知総会が開催され、集落営農法人（20法人）、関係機関等64名が参加しました。議案の承認後、農林年金の松岡公明理事長と農山村地域経済研究所の楠本雅弘所長による講演会、（株）サンビレッジ四万十の浜田好清氏及び浜田大彰氏による事例紹介も行われました。参加者からは「法人の所得向上が課題である」「担い手をどのように確保していくかが課題である」などの意見があがりました。普及所は、今後も集落営農法人の担い手確保や経営安定に向けて集落営農塾や先進地視察等を通して支援していきます。

酒米の品質向上を目指して ～JA四万十酒米生産部会現地検討会の開催～	
 ほ場の状態を見る生産者	7月13日、JA四万十酒米生産部会の現地検討会が開催され、生産者10名が参加しました。 普及所は、幼穂形成期から出穂期における水の管理や、病害虫の防除について指導しました。また、各生産者のほ場を巡回し、幼穂長、葉色などを調査し、生育に応じて、適切な穂肥のタイミングや施肥量を指導しました。 生産者からは「葉色が濃いのが、穂肥はどうしたらよいか」など積極的な質問が出されました。 普及所はこれからも、酒米部会の生産者にあった栽培技術を指導、検討し、酒米の品質の向上に努めていきます。

収量・品質アップに向けて ～JA高知はた十和支所シシトウ現地検討会の開催～	
 生産者同士で意見交換	7月2日、9日、13日、JA高知はた十和支所の9地区で、シシトウの現地検討会を開催し、58名が参加しました。 JA高知はた北幡営農センターからは、樹勢の判断や病害虫対策などについて、普及所からはかん水管理や追肥などについて説明しました。 生産者からは、「粒状の肥料を使用する場合には、どこの位置に追肥したら良いか」などの質問や、生産者同士でせん定技術を教え合うなど積極的に意見交換されていました。 普及所では、今後もシシトウの収量品質の向上に向けて、個別巡回などを通して支援していきます。

集落営農の活性化に向けて ～平成30年度高南地域集落営農組織代表者連絡会の開催～	
 熱心に講演を聴く代表者	7月20日、JA四万十本所大ホールで、平成30年度高南地域集落営農組織代表者連絡会が開催され、集落営農組織21組織31名、関係機関13名の計44名が参加しました。 普及所は、県域や四万十町での集落営農の設立状況などを説明し、その後、（農）さだしげ（広島県東広島市）の畝啓一郎代表理事を招き、その農事組合法人の活動や、広島県集落法人連絡協議会の取組について講演していただきました。 参加者からは、「法人として経営は黒字であるか」「広域連携の取組はうまくいっているか」などの質問が出されました。 普及所は、今後も集落営農の組織化や法人化を推進し、集落営農組織の育成に向けて支援していきます。